年間授業計画

足立東 高等学校 令和７年度（３学年用） 教科　地理歴史　科目 世界史基礎

教　科：　地理歴史　　科　目：　世界史基礎　　単位数：　2　単位

対象学年組：第　3 学年　選択者

教科担当者：亘

使用教科書：（『改訂版　世界史Ａ』　第一学習者　）

教科の目標：

【知識及び技能】現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・世界の歴史についての諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択することができるか ・資料や情報を効果的に活用することを通して歴史的事象について追究する学び方を身に付けているか ・世界の歴史について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているか	・世界の歴史から課題を見いだし、世界史的視野に立って多面的、多角的に考察しているか ・諸課題について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら、国際社会の変化を踏まえて公正に判断しているか ・歴史的観点から考察したり判断したりした過程や結論を、様々な方法で適切に表現しているか	・世界の歴史に対する関心を高め、歴史上の諸課題について問題意識を持って意欲的に追究しているか ・歴史上の諸課題について追究してきたことを通して、国際社会の一員として現代の諸課題に主体的に関わろうとする態度を身に付けているか

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	【知識・技能】 日本の歴史が世界の歴史とどのように関わっていたのか、「人・モノの移動」、「宗教の伝来」および「食べもの・技術の移転」の3つの例を参考にしていくつかのテーマを取り上げ、年表に整理したり地図で表したりしながら考える。 【思考・判断・表現】 地形や気候などの自然環境が人類の歴史に与えた影響について、いくつかの世界史上の事例を取り上げて考察し、考察したことを適切に表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 地図、雨温図、写真などから自然環境の特質を読み取り、「河川・海洋」「森林・草原・オアシス」などの景観と歴史との関わりについて追及する。	・指導事項 指導目標に基づいた授業 ・教材 パワーポイントを使用した視聴覚教材、授業プリント ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 日本の歴史が世界の歴史とどのように関わっていたのか、「人・モノの移動」、「宗教の伝来」および「食べもの・技術の移転」の3つの例を参考にしていくつかのテーマを取り上げ、年表に整理したり地図で表したりしながら考えている。 【思考・判断・表現】 地形や気候などの自然環境が人類の歴史に与えた影響について、いくつかの世界史上の事例を取り上げて考察し、考察したことを適切に表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 地形や気候などの自然環境が人類の歴史に与えた影響に対して関心を高め、いくつかの世界史上の事例を取り上げて意欲的に追究している。	○	○	○	26
2学期	【知識・技能】 古代ギリシア・ローマ文化とキリスト教を基盤に形成されたヨーロッパ世界の展開と、東西ヨーロッパ世界がそれぞれ特色ある地域世界として形成されたことを理解する。 【思考・判断・表現】 古代ギリシア・ローマの文化や制度の現代社会への影響、東西ヨーロッパ世界の歴史的特質の違い、政治や社会生活へのキリスト教の影響などについて考察し、考察したことを適切に表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 古代と中世のヨーロッパ史に対する関心を高め、古代ギリシア・ローマや中世ヨーロッパの歴史が現代社会にどのように関係しているのか追究する。	・指導事項 指導目標に基づいた授業 ・教材 パワーポイントを使用した視聴覚教材、授業プリント ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 ヨーロッパの風土、古代ギリシア・ローマ世界と中世ヨーロッパ世界の大まかな歴史を理解し、その知識を身に付けている。 【思考・判断・表現】 古代と中世のヨーロッパ史の大まかな流れをたどることを通して、古代ギリシア・ローマの文化や制度の現代社会への影響、東西ヨーロッパ世界の歴史的特質の違い、政治や社会生活へのキリスト教の影響などについて考察し、考察したことを適切に表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 古代と中世のヨーロッパ史に対する関心を高め、古代ギリシア・ローマの文化や制度が現代社会にどのように影響しているか、東西ヨーロッパ世界の形成にキリスト教がどのように関わっているか、意欲的に追究している。	○	○	○	28
3学期	【知識・技能】 19 世紀後半のヨーロッパで国民国家が形成されていく過程、および 19 世紀のアメリカ合衆国における西部開拓の進展と南北戦争による社会の変化について理解し、その知識を身に付ける。 【思考・判断・表現】 ヨーロッパで国民国家が形成されていく過程について、またアメリカ合衆国における西部開拓の進展と南北戦争による社会の変化について、国際関係をふまえて様々な観点から歴史的に考察し、地域や国によって立場が異なる理由などを適切に表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 19 世紀後半のヨーロッパや 19世紀のアメリカ合衆国における社会の変化や国際関係について関心を高め、現代の世界の歴史的背景として位置づけ、調べたり、資料を分析したり、議論したり、考察したことをまとめたりして意欲的に追究する。	・指導事項 指導目標に基づいた授業 ・教材 パワーポイントを使用した視聴覚教材、授業プリント ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 19 世紀後半のヨーロッパで国民国家が形成されていく過程、および 19 世紀のアメリカ合衆国における西部開拓の進展と南北戦争による社会の変化について理解し、その知識を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ヨーロッパで国民国家が形成されていく過程について、またアメリカ合衆国における西部開拓の進展と南北戦争による社会の変化について、国際関係をふまえて様々な観点から歴史的に考察し、地域や国によって立場が異なる理由など考察したことを適切に表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 19 世紀後半のヨーロッパや 19世紀のアメリカ合衆国における社会の変化や国際関係について関心を高め、現代の世界の歴史的背景として位置づけ、調べたり、資料を分析したり、議論したり、考察したことをまとめたりして意欲的に追究している。	○	○	○	16 合計 70